

一般社団法人

Japan Jenaplan Association

日本イエナプラン教育協会

ニュースレター vol. 34 2018. 9月号

🔍 Contents

1. オランダ・イエナプラン専門教員研修（3ヶ月研修）総括（特別顧問 リヒテルズ直子）
2. 第3回全国大会@東京
3. オランダ夏季研修報告
4. 各支部活動報告（各支部より）
5. お知らせ

－ オランダ・イエナプラン専門教員研修(3ヶ月研修)を振り返る －

イエナプランナーの資質とは？

特別顧問 リヒテルズ直子

当たり前が当たり前でなくなる生活体験の中で

オランダ・イエナプラン専門教員研修「日蘭イエナプラン・アカデミー」（通称3ヶ月研修）は、1回目2016年の募集では十分な人数が集まりませんでした。2回目の2017年には、なんとか最低催行人数の10名を超える12名の応募者が集まり、実施が実現しました。

何よりも、3ヶ月という長期にわたって時間と資金を投資して下さった参加者の皆さんには、その心意気に敬服するとともに、日本イエナプラン教育協会の理事や事務局の皆さんの尽力に対しても心から感謝申し上げます。

さて、2017年9月から12月までの「3ヶ月」に渡る研修は、すでに短期研修や日本への訪問でもすっかりお馴染みのJASのヒュバートとフレーク、また今回は、新たにヒド(Guido)を講師として迎えて実施された集中講習と、間に3回（2週間2回と1週間1回）、オランダ人家庭にホームステイしながらの学校参加から成っていました。

12人の参加者の中には、すでに今までに短期研修への参加や、オランダに住んだ経験のある人もいましたが、今回オランダが初めて、という方もいらっしゃいました。何れにしても、衣食住の習慣も、人々の物の考え方も、日本とはまるで異なるオランダでの研修とホームステイ、そして学校見学は、中身であるイエナプラン教育を学ぶということ以前に、何よりも一種のカルチャー・ショックだったのではないかと思います。

もちろん、研修に込められた意図は、オランダのイエナプラン教育の現実の姿を見ながら理論の理解を体験的に深めることが目的で、そのための1つの方法としてオランダ人家庭でのホームステイを企画して

いたことは言うまでもありません。この経験を通して、ドイツから伝わったイエナプラン教育が育っていた背景にあるオランダ社会の人々の物の考え方、行動の仕方に触れてもらうことが、隠されていた意図でした。イエナプラン教育を単に頭で理解するのではなく、体感として心の深いところで理解してもらうチャンスを作っていたということです。

とはいえ、初めてのホームステイ先で感じた参加者たちの戸惑い、驚き、心の葛藤は、決して生易しいものではなかったと理解しています。オランダなど西洋の国々のことは、日本でもテレビや雑誌、人々の経験からたくさん伝わっているはずですが、それでも「百聞は一見にしかず」で、やはり現地にやって来て、自分自身がどっぷりその中に浸かり、オランダの人々との間で思わぬ誤解が生じたり、意外なところで共感したりするという経験がなければ、本当のところはわからないはずです。そういう私自身ですら、もうかれこれ40年近く日本の外で暮らしていますが、今でもふと、自分の思い込みや思わぬ誤解に気づかされるものです。でも、そうやって、自分がいつも暮らしているコンフォートゾーン（何も気構えずに安心していられる場）を離れることで、自分が当たり前と思っていたものを、少し距離を置いて見直すことができるようになるし、見直しを通して、今まで慣れ親しんでいたことに対して、他の見方ややり方があることに気づいたり、これまで気にしてもいなかったことが、日本の良さであることに気づいたりするものなのです。

12人の目には、こうした背景にあるオランダ社会の様子を学んだことを通して、なお一層くっきりと、また、厚みを増してイエナプラン教育の姿が見えてきたと確信しています。

オランダのイエナプラン・スクールが全て理想的ではないという経験

とりわけ、遥か遠い日本から「理想郷」を見るように、「オランダに行けば理想の学校、イエナプラン・スクールがたくさんある。」という期待を持っていた参加者も少なくなかったようで、学校訪問では、まず、その思い込みを壊されたのではなかったかと思います。

オランダには約220校のイエナプラン・スクールがあります。研修期間中、研修生は、3度、異なるイエナプラン・スクールに入って実習しました。そして、研修所に帰ってきてから皆さんの振り返りの話を聞いていると、12人のほとんどが、オランダのイエナプラン・スクールが、どうやら全て理想的ではないこと、どの学校にも様々な課題があることに気づいていました。このことは、実習先での体験を通して、「これは素晴らしい」「ここは真似たい」と思うと同時に、「これでいいのかな」「自分がしてきたことの方がずっとちゃんとやっていたと思う」など、参加者の批判的な思考が磨かれる体験だったと思いますし、日本でやってきたことへの自信にもつながったのではないかと思います。

実を言えば、スース・フロイデンタールが、ドイツのペーターセンの「小さなイエナプラン」に感動してオランダの小学校の先生たちに広めた後、オランダの先生たちも「理想を求めて」ドイツに学校を見に行くのですが、予想に反して落胆して帰ってきたというエピソードがあります。「こんなことなら、自分たちの方がずっとうまくイエナプラン教育を実現してみせる」と思ったのだそうです。そして、その意気込みが、オランダでのイエナプラン教育の発展に加速度を与えました。研修生にも、そんなふうにしてもらえたなら良かったけれど、と思います。

実際、私自身、たくさんのイエナプラン・スクールを見てきましたが、率直なところ、本当に「理想的」な姿のイエナプラン・スクールには、オランダにいてもなかなか出会えないものです。理由として、いくつかがことが考えられます。

1つは、学校というものは常に動いており、熟練の先生もいれば新米の先生もいる。教員養成や研修も、学校ごとの方針があり、それがいつもスムーズに展開しているとは言い切れないこと。2つ目は、オランダの教育制度では、校長のマネジメント力が大きく問われ、そのために校長先生の仕事が大変過重となり、ともすれば短期間で辞めたり交代したりするケースが少なくないこと。その結果、イエナプラン教育をよく知らないのにマネジメント力だけを認められて、あるいは、他校での経験が認められてイエナプラン・スクールの校長に就任している場合も多いこと。3つ目は、世界の他の地域の例に漏れず、今日、オランダの学校も、家庭で結合感情が育てられていない子どもたちや移民の子どもたちなど、問題山積の中でイエナプラン教育に取り組んでいること、です。そして、あえて、もう1つ挙げるならば、西洋の先進諸国や日本の例に漏れず、この40年ほどの間に加速的に進んでいった新自由主義的な、つまり、効率を求めて競争的に数で示せる成果をあげるという傾向が世の中のありとあらゆる局面を侵食している間に、福祉や教育といった公共事業で働く人々が、自分の思いを遂げられないまま、システムの歯車にされて喘がざるを得ない状況が、多かれ少なかれあることでしょう。日本に比べれば、はるかに恵まれているオランダの先生たちも、こうした傾向の中で苦しんでいます。

とはいえ、そうした問題含みの教育現場にあっても、イエナプラン・スクールには、まだまだ、理想を語り、理想に近づくために日々努力している先生たちがいて、そういう努力を続けるゆとりが与えられている様子に、感動したり羨ましさを感じたりした参加者は少なくなかったのではないのでしょうか。皆が皆優れているわけではないけれど、本当に教育者として、人間として、学ぶべきものを持っている人たちがいます。参加者には、そうした方々との出会いを、これからも大切にしていって欲しいと切に思います。

他者と共に学び、他者を通して自分を見出す

さて、研修中の講習では、常に「他者と共に学ぶ」ことが意図して仕組まれていました。まずは、ご存知の通り、常に、全員のサークル対話と小グループでの学びという形式が繰り返し、繰り返し用いられていたことです。そして、もう1つ、期間ごとに相手を変えながら2人ずつパートナーシップを組み、毎日お互いに振り返りをする習慣ができていったのも、「他者と共に学ぶ」ということを、経験を通しておこなったことの1つであったと思います。講習期間中、参加者たちは、毎日、その日の学びの終わりに、2人ずつの組みになって意見交換をして、1日の学びを振り返っていました。

この方法には、2つの意味合いがあったと思っています。

1つは、じっくりと意見交換をするパートナーを持つことで、お互いの信頼の絆が、サークル対話だけでも、一層深く結ばれていったことです。もう1つは、（一斉授業や一般的な講習会でありがちな）「ああ、良かった」「目からウロコだった」との一言で終わり、学びを言語化することがないままに放置するのではなく、何が良かったのか、どこが目からウロコだったのかを、自分とパートナーの言葉として記憶に残していくことができたことです。

イエナプラン教育が、今日、競争主義の教育によって毒されてしまった学校や社会に対して、何を最も訴えようとしているのかというと、まさに「共に学ぶ」ことで、それ以外、自分と他者を深く知り、お互いに異なる存在として尊重し合うことを学ぶ方法はないと言い尽くせるのではないのでしょうか。

産業化社会の競争主義の学校、ふるいにかけるように優劣をつけていく一斉授業型の教育は、いやが応にも子どもたち同士の間にも溝をつくり、生徒たちにも教員にも「誰が一番できるか」「誰よりも誰が上か」と常に意識させます。しかし、全ての子どもが、それぞれのテンポで、自分らしい生き方を実現できる

ように学んでいくことを支援しようとするイエナプラン・スクールは、「共に学び、共に生きる」楽しさを教えます。その楽しさが、やがて、世界規模で他者への信頼につながり、誰とでも「きっと理解しあえる」と信じて、世界社会の問題に共に取り組む姿勢を生む原点となるのです。

システムの一部としてシステムの全容を学ぶ： ワールドオリエンテーションの体感経験

参加した研修生たちが、文字通り、夜も昼もなく頑張ったのは、卒業研究でした（まあ、オランダの常識からいうと、夜はしっかり寝て遊んでいてもらって良かったのですが、やっぱり日本の人はみんな真面目だなあ、と苦笑いをしながら見ていました（笑））。もっと気楽に、冗談でも飛ばし合いながら和気藹々と進んでいくのかな、と思っていましたが、実際には、みんな、かなり凄まじい表情で研究に取り組んでいました。これは、初めに言ったように、異文化の環境でカルチャー・ショックを受けながらという厳しい環境だったから、かもしれません。でも、もしかすると、あの時に、やっぱり、日本の学校教育に深く染み込んでしまった「競争意識」を覗かせていたのならば、少し残念なことだった、ともちょっと気になります。

ともあれ、卒業研究こそが、実は、ワールドオリエンテーションを学ぶ経験学習そのものであったことを、皆さんは、どれほど意識していらっしゃったでしょうか。

卒業研究への取り組みは、このように進みました。

まず、ヒュバートは、「日本でイエナプラン教育を広げるに当たって、何をもっと深く調べておかなければならないか」と研修生全員に投げかけ、イエナプラン教育を実践していくにあたり、押さえておくべきことを、12人の研修者の見ている前でマインドマップの形にしていきました。少しずつ枝分かれして行く小テーマの上に、様々なキーワードが書かれていきました。どれも、講習中に取り上げられたことで、見ていた研修生たちは、講習中に学んだことや学校見学で気づいたことを頭に浮かべながらマインドマップが作られていくのを見ていたはずです。その後、研修生たちは、2時間ほどの時間をかけて、このマインドマップを基に、自分が卒業研究のテーマとして取り上げたいことを選んでいきました。中には、関心が重なっていた人もあり、ここでは、共同する、譲り合うことの体験をしていたと思います。

ワードウェブ（キーワードを蜘蛛の巣のように書き連ねるやり方）やマインドマップは、ワールドオリエンテーションを行う際に、取り上げたテーマの様々な要素が、システムの中でつながりを持っていることを意識できるように作られるものです。一人ひとは、自分の仕事が、全体としてどこにどういう位置付けにあるのか、他の人の仕事とどう関係があるのかを意識して、探究作業に取り組み始めます。ここで、システムの全体を意識しながら、その部分を自分が担当することができるようになるのです。ですから、部分を「担当」することには、全体への「責任」が伴います。どの枝のテーマを担当していた人が「一番良かったか」ではなく、みんなが全力を尽くした結果が、全体にどう貢献できたか。一人ひとりの探究が、全体をどれほど豊かなものにするか、が大切なのです。

イエナプランナーとしての資質とは？

エンゲージメントという言葉がありますが、ご存知でしょうか。フランス語ではアンガジュマンという

言葉、オランダ語では、ベトレッケンヘイトという言葉を使います。アンガジュマンという言葉から、サルトルを思い浮かべる人もいるかもしれません。

何れにしても、エンゲージには、「責任を持ってコミットする」というような意味合いがあります。エンゲージメントの訳語として、おそらく、皆さんの中には、「婚約」という言葉を思い出す方もいらっしゃるかもしれません。「婚約」は、今までは、お互いにただ好きだったり愛し合ったりしているだけだったのが、エンゲージすることで、将来も人生を共にする、共同で人生を歩むために、お互いに相手に対する責任を持つ、という意味があるのです。ですから、市民社会を語る時にしばしば言われる「社会に対してエンゲージメントしているか」というのは、社会の一員として、責任を持って言うべきことをきちんと他者と共有し、自分の言動を公開してそれに伴う責任を負う行動をしているか、というような意味になるのです。

この、社会に対してエンゲージした人こそ、「市民」であり、単なる消費者である大衆とは一線を画する存在であるのです。

ワールドオリエンテーションは、まさに、自由意思と責任を持って社会にエンゲージするとはどういうことか、を学ぶための経験学習に他なりません。あの時、卒業研究としてイエナプラン教育をテーマに研修生たちが行ったワールドオリエンテーションもまた、これから、社会に責任を持ってコミットメントしていく市民を育てることに最大の目標を置いたイエナプラン教育の教員の資質として、最も大切なこと、すなわち、他者とその他者がいる社会に対して自由意志と責任を持って行動する人間を育成するというこれに関わるという自覚を得るための体験だったのです。

多分、皆さんが、何度も繰り返し読んできたイエナプランの「20の原則」や、スース・フロイデンターの「8つの原則」、そして、自分と他者と世界との関係を学ぶための「コア・クオリティ」は、どれ一つを取っても、その先に見ているのは、こうした社会に背を向けることなく、社会にしっかりとエンゲージしていく「市民」としての教員の姿であるのです。

そこには、他者との競争意識はありません。

また、エンゲージしていく人たちは、世の中がどんなに暗く、人々がどんなに失望をしていても、自分たちは、率先して、その暗闇の中に光を見出し、希望を捨てない人たちです。

イエナプラン教育が、オープンモデルという名の下に、それぞれの土地のそれぞれの文化に見合う形で花開かなければならないものだとしても、教員たちが、この希望を捨てずに、明るく子どもたちを支え、励まし導いていく存在であることだけは、頑として変えずにいて欲しいと思います。



オランダ夏季研修報告

イエナプラン研修での学び

報告：片岡 利允（奈良県小学校教諭）

オランダでの5日間のイエナプラン研修が終わりました。

やっぱり、来ないとわからないことがたくさんありました。

緩やかにゆったりと流れる時間。何かに縛られることなく自由で穏やかな空気。

「緩やかで無駄がない」

ぶくが、イエナプランスクールを見学して、まず一番美しいと感じたことは「緩やかで無駄がない」ということです。3つにまとめてみたらこんな感じ。

①リズムミクな計画と余白

「子どもから始まる」ということを大切にしているイエナプラン教育は、1日の流れも、その日のその場の子どもたちの様子に合わせて、リズムミクに変化していきます。

計画は立てるものの、クラスの雰囲気や子どもたちの様子によって、先生は、時間を早めたり、伸ばしたり、フレキシブルに変更します。もちろん、チャイムはありません。「計画は目的ではない」ということを講師の方がおっしゃっていました。

計画通りにすることを目的として、子どもたちを計画にはめることが大切なのではない。大切なのは子どもたちのモチベーション。そのためのツールとして計画があるということです。

そこで、先生に必要なのが「感覚」。

子どもたちの一人一人のことをよく見て感じられるかどうか、クラスに流れるリズムを感じられるかどうか。そういったことが求められます。

必ずしも時間通りに子どもたちを動かす、コントロールすることが必要なのではない。こういったことを可能にするのが「余白」なんだろうなあ。

1週間単位でクリアすることを把握した上で、応用が利くような時間の「余白」を、そして、何より先生自身が「感覚」を大切に、研ぎ澄ませるような心の「余白」が必要なんだと思います。

こういったことから、その場に流れる心地よい「緩やかさ」が生まれる。そんなことを感じました。

②連続性と文化

今回の研修で見学した学校は、新学期が始まって3日目でした。

しかし、全く新学期とは思えない落ち着いた雰囲気、子どもたち同士の信頼関係。その理由は、クラス編成にあるんだろうなあ。

イエナプランでは、異年齢集団のクラス編成にすることで、より「連続性」を大切に、「無駄なく」スムーズに次の年を迎えられる。

年度初めであっても、そこにすでにある「文化」が、新しく迎える学年のメンバーを包み込む。だからこそ、安心感が生まれやすいのだろうなあ。

本来、「日常」は連続したものであり、そんな「日常」を学ぶ学校は、こうあるべきなのかもしれないです。

③信頼と選択の尊重

毎年経験することなのですが、年度当初必ず、「先生、トイレ行っていいですか？」と確認してからでないとトイレに行けない子どもたちがたくさんいます。

6年生であっても100%です。ぼくは毎回「聞かなくても行きたくなったら自分の判断で行っていいよ。」と言います。それでも、しばらくの間は確認してきます。

ぼくは、この確認作業がとても「無駄」な時間だなあとと思っています。そもそも、トイレに行くタイミングも自分で判断できないようではなあとと思います。でも、現状、こういった教育がなされています。

見学したイエナプランスクールの教室では、どの学年の子も、自分の好きなタイミングでトイレに行きます。先生は、先生の都合でトイレに行くことを止めたりしません。トイレに行くタイミング1つにしても子どもたちの選択を尊重します。本当の意味で子どもたちのことを信頼しているからなのでしょう。

トイレはほんの一例で、日常のあらゆる場面で、子どもたちの選択を尊重しているんだろうなあということが感じられました。

「ブロックアワー」の時間を見学したときのことで。

年度初めだったからか、先生がクラス全体でイントロダクションのようなことをしたあと、テキストが配られました。一人一人、先生からテキストをもらって、何の合図もなしに、それぞれがそれぞれの場所で、方法で、学習をスタートさせていました。

もらってすぐ、一人で黙々とテキストを進めていく子。

友だちと一緒に話し合いながら進めていく子。

廊下にある机で、ブロックを使いながら友だちと学んでいる子。

前で先生のインストラクションを聞いている子。

音に敏感なのか、ヘッドホンをつけて一人で学んでいる子。

先生に指示されたわけでもなく、子どもたちは全員、自分で学び方を選択していました。

学ぶことにに対して前向きな姿勢を、どの子からもびんびんと感じました。

ここでもやっぱり「選択」することが尊重されていました。

全員が一斉に同じことを同じだけする授業ではありません。

本当の意味で学ぶとはこのこと。

イントロダクションから、テキストを配って、子どもたちが学ぶところまでが、本当に「緩やかで無駄がない」。感動しました。

本当の意味で、子ども中心に考えると、自ずと「緩やかで無駄がない」ようになってくるんだろう。

子ども中心に考えていたはずが、まだまだ大人の都合に子どもたちをはめ込んでいた自分に気づきました。まだまだです。



イエナプラン 夏季研修報告 「共に生きる」「自分らしく生きる」

報告：小林直樹（長野県中学校教諭）

1 見たこと 感じたこと

問いを選んでいる場面での、グループリーダーから子どもへの質問と子どもの返答

T「どうやって問いを選んでいるの？」

C「オープンな質問であるかっていうのを見ている。答えがYes or Noではない。もっと深く掘り下げることができる質問。しかも答えが出せる質問。プロジェクト期間中にできる質問。前にやった問いではないやつであること。答えがわからない問い。グループのマインドマップをもっと広げられるような質問。」

※ワールドオリエンテーションの説明の動画より

→子ども自身が問いの重要性をわかっていて、それを言葉にできていること。これは、子ども自身が学びのコントローラーを握っているということ。子どもの問いから始まる学習がありました。

小学校1～3年生のクラスでは、ブロックアワーが行われていた。5人の子どもが算数のレッスンをグループリーダーから受けている傍ら、他の子どもたちは、スペリングやリーディング、算数などの課題にそれぞれ取り組む。しかし、中々教室が静かにならない。3年生を集めてどうしたら静かに学習ができるかの話し合い。それでも静かにならない。すると、グループリーダーはブロックアワーを終了させ、リズム遊び→おやつ→おやつを食べながらスペルのクイズへと活動を切り替えていった。

→一定のリズムや教師の計画のリズムではなく、子どものリズムを大切にしている。グループリーダーの話では、「今日だけじゃなくて、今日やりたくなかったら、明日やればいいし、その次でもいい。今彼らがやりたくなかったら、やらなくていい、やるのを待てばいい。」とのこと。緩やかで柔軟だなと感じました。リズムを感じるには、教師自身の「感覚」を大切にしなければならない。見返しながらも自分の「感覚」を磨いていくこと。大人の枠にはめないこと。私は自然と子どもたちを自分の枠にはめていたのではないかと振り返るきっかけになりました。

2 今の私

「実際にオランダに行って、オランダの社会とイエナプランの雰囲気を感じたい！」という願いで、夏季研修に参加してきました。イエナプラン教育には、ここ2年間ほど本やDVDなどを通してその考え方や手法に触れてきましたが、今回実際にオランダに行って本当に良かったと思っています。行って初めて自分に入ってくるもの、感じるものがありました。それは、「共に生きる」ことを大切にしていること。個人単位ではなく、社会全体でそれを感じました。歴史的背景から「共に生きる」ことを大切にしようという動きがあるということや、イエナプランの学校内だけでなく、お互いに尊敬しあって生活をしているような社会の雰囲気を感じることができました。また、「共に生きる」ということと同時に、「自分らしく生きる」ことも大切にしていること。自分のやりたいことも大切にしながら、相手のやりたいことも尊重している。学びに来ていた研修仲間たちもそれを大切にしていました。私自身は、「私は何がやりたいんだろう」と問い返す日々が続いています。研修後は、問いが湧いてくる毎日。今の私や学校、教育、社会、そして世界についてモヤモヤしながらも、これからの未来を考えるとワクワクしています。

支部報告 (2018年3月から9月時点までまでの活動をまとめてご報告いたします。)

【特別報告】 兵庫教育大学研修講座開催「イエナプラン教育に学ぶ」

今回はまず、現在まだ支部はありませんが、兵庫からの報告です。兵庫教育大学で、「イエナプラン教育の研修講座」が行われました。研修には協会からも久保が講師の一人として登壇しました。

報告：田村 優弥 (兵庫教育大学4年)

8月8日に、兵庫教育大学の神戸ハーバーランドキャンパスにて、イエナプラン教育に関する研修が開講されました。30名ほどの先生方が集まり、イエナプラン教育について学びました。

研修では、まず、オランダの教育やイエナプラン教育についての講義が行われました。オランダ・イエナプラン・スクールでの実体験やイエナプラン教育のコンセプトなど、様々な視点からの講義に、ほとんどイエナプラン教育について知識がなかった先生方にも、その良さを知っていただけたのではないかと思います。

後半は、先生方にワールドオリエンテーションを体験していただくというグループワークでした。チョコレート、コイン、ペットボトルなど、身近にあるものを題材に、グループで問いを集めました。身近にありよく目にしているものですが、問いを考え始めると、普段の生活では思いもよらなかった問いがたくさん生まれて、大変楽しい時間になりました。多くの先生方に問いを持つことの面白さと大切さを体験していただけたと思います。

参加者の先生方の中には、現状の学校教育に違和感を抱いていらっしゃる方が多数いました。そういった方と話していると、公教育の先生方の中にもイエナプラン教育を求めている方がたくさんいるのではないかと感じました。そういったことから、これからの日本でのイエナプラン教育の発展を予感したとともに、私も、イエナプラン教育について知りたい方にしっかりと情報が届くように行動していかなければいけないと思いました。

【帯広支部】

3月に立ち上げの活動として、講演会を開きました。手探りしながら、みんなで作る帯広支部にしていきたいです。よろしくお願いいたします。

《活動日》

- ・ 8月9日 講演会

協会理事の幕内那菜さんより、『子供の遊び』をイエナプランではどのように考えるのかを話して頂きました。講演会を聞きに行ったSaiの森の保護者も、うなずきながら聞いていました。

《今後の活動》

決まり次第報告いたします。

(報告：大澤 浩介)

【千葉（浦安）支部】

最近、近隣の町(行徳や佐倉)に活動を広げつつあります。イエナプランを学びながら、実践の場として、週に1度「小さなイエナスクール」を開き、子どもたちと一緒に活動しています。

《活動日》

- ・ 3月30日（金） イエナカフェ@浦安オーナー会議
- ・ 5月22日（火） イエナ勉強会
- ・ 6月18日（月） イエナ勉強会
- ・ 7月8日（日） 佐倉勉強会
- ・ 8月1日（水） 小さなイエナ夏休みスペシャル「ガーナお話し会」
- ・ 8月19日（日） 栃木勉強会
- ・ 8月29日（水） 小さなイエナ夏休みスペシャル「デジタル絵本作り」
- ・ 9月17日（月） イエナカフェ@南行徳
- ・ 毎週水曜日：小さなイエナスクール開催

《今後の日程・告知》

- ・ 10月20日（土） 18：45～21：30@浦安音楽ホール
学校は誰のもの？徹底対談「前川喜平×木村泰子」

（報告：山田 順子）

【東京（江東）支部】

今年から、毎月オンラインでイエナカフェを開催しています。「20の原則」をもとにしつつも、日頃感じていることや、今後学校や社会で自分に何ができるかを深く対話しています。

《活動日》

- ・ 6月12日（火） 第6回イエナカフェ@ZOOMオンライン「20の原則を読んで語ろう」
- ・ 7月9日（月） 第7回イエナカフェ@ZOOMオンライン「20の原則を読んで語ろう」
- ・ 8月27日（月） 8月のイエナカフェ@ZOOMオンライン「20の原則を読んで語ろう」
- ・ 9月17日（月） 9月のイエナカフェ@ZOOMオンライン「20の原則を読んで語ろう」
（全て浦安支部、名古屋支部との共催）

《今後の日程・告知》

- ・ 10月29日（月） 21：30～23：00
10月のイエナカフェ@ZOOMオンライン「20の原則を読んで語ろう」

（報告：川崎 知子）

【東京（世田谷）支部】

「20の原則を読む会」として継続中です。現在は、新学習指導要領を読み進めつつ、イエナプラン教育とのつながりやそれぞれの現場での可能性について考え、おしゃべりしています。最近は、オンラインでの参加者も増えています。

《活動日》

4月8日（日）、5月27日（日）、6月16日（土）、8月19日（日）、9月17日（月）に実施しました。

（報告：浅野 聡子）

【長野（東信）支部】

イエナプラン教育を通して、問いを生み、各々の生き方について向き合っています。主催者、参加者関係なく、みなさんが主体者として、意見交換を月1回行っており、今後は参加者同士で学び、取り組んでいることを表現できる場も用意して、さらに学び合いをしていきます。

《活動日》

- ・ 4月8日 イエナプラン を学ぶ vol.3 明日の学校に向かって
- ・ 4月13日 イエナプラン を学ぶ vol.4 明日の学校に向かって
- ・ 5月11日 【応用編を観る】イエナプランを学ぶ vol.5 明日の学校に向かって
- ・ 6月8日 【教育先進国レポート：オランダ】イエナプラン を学ぶvol.6
- ・ 7月13日 イエナプラン を学ぶ vol.7 明日の学校に向かって
- ・ 8月3日 イエナプラン を学ぶ vol.8 明日の学校に向かって
- ・ 9月7日 イエナプラン を学ぶ vol.9 明日の学校に向かって

《今後の日程・告知》

10月、11月以降も、毎月1回の頻度で勉強会を実施します。

（報告：大越 要）

【長野（中信）支部】

長野県の中信地区で、イエナプラン教育の勉強会を開いています。日本の公教育を変えていきたいという思いで活動しています。

《活動日》

- ・ 6月17日（日） 第6回イエナプラン教育勉強会（松本市中央公民館 Mウィング）
「民設公営イエナプラン校の可能性」
- ・ 9月24日（月） 第7回イエナプラン教育勉強会（松本市中央公民館 Mウィング）
「オランダ・イエナプランスクール視察報告」

（報告：滝澤 輝佳）

【長野（南信）支部】

DVDを観たり、「20の原則」を読んだりしながら、おしゃべりしています。

《活動日》

- ・ 7月14日（土） DVDより『イエナプラン教育を支える教員』を視聴、原則14の読み解き

《今後の日程・告知》

- ・ 10月6日（土） 10：30～12：30 伊那市西春近2929-4 グループホーム楽多
2018夏季オランダ研修報告（小林直樹さん）
DVD視聴『イエナプラン関係者へのインタビュー集』

（報告：幕内 那菜）

【愛知（名古屋）支部】

イエナプラン教育のコンセプト「20の原則」を通して教育について学びあう学習会や、コーチング理論をおりまぜたイベントを開催しております。そして、9月に岐阜市で行われる小学生とその保護者を対象としたイベント『ぎふマーブルタウン』内で、「20の原則」を通して、教育・子育てを考えるというテーマでお話しさせていただきます。また、今年度から千葉（浦安）支部・東京（江東）支部とのコラボ企画として、「20の原則」を読む会などを開催しています。

《活動日》

●愛知（名古屋）支部企画

イエナプラン教育×コーチング～“あなただから”できる実践のカタチ～

- ・ 4月7日（土）名古屋市
- ・ 8月25日（土）名古屋市

イエナカフェ@ナゴヤ「20の原則」を読む

- ・ 4月21日（土）名古屋市『原則6について』
- ・ 6月23日（土）名古屋市『原則7について』

オランダイエナプラン教育のコンセプト「20の原則」を通して、教育・子育てを考える

- ・ 9月2日（日）岐阜市

●千葉（浦安）支部とのコラボ企画

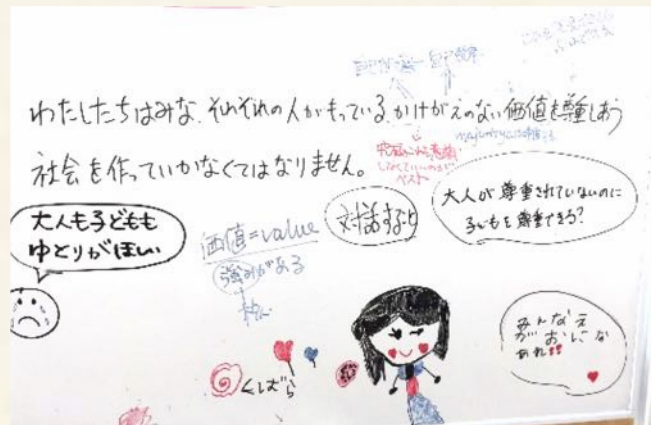
イエナカフェ@浦安 オーナー会議

- ・ 3月30日（金）浦安市

●東京（江東）支部とのコラボ企画

イエナカフェ@オンライン 20の原則を読んで語ろう

- ・ 6月12日（火）ZOOMオンライン
- ・ 7月9日（月）ZOOMオンライン
- ・ 8月27日（月）ZOOMオンライン



（報告：若杉 逸平）

【福岡支部】

「20の原則を読む会」を続けています。あと2回で読み終わりです。5月にはオランダ3ヶ月研修の報告会第2弾を行いました。今回は藤元祐衣さんからの報告でした。彼女の関心である、居場所とシチズンシップ教育の視点から、子どもの表情を生き生きと撮った写真をふんだんに交えて報告を基に、参加者とじっくり交流する会となりました。小学3年生の参加者が「こんな学校に通いたい」と発言してくれたことがとても印象的でした。

《活動日》

- ・ 5月31日（木）オランダ3ヶ月研修報告会
- ・ 6月23日（土）「20の原則を読む会」
- ・ 7月14日（土）「20の原則を読む会」
- ・ 8月18日（土）「20の原則を読む会」

《今後の日程・告知》

- ・ 9月29日（土）「20の原則を読む会」
- ・ 11月23日（金）「20の原則を読む会」最終回



（報告：久保 礼子）

【オランダ支部】

今年1月に立ち上がったオランダ支部です。7月と9月に遂にワークショップを行うことが出来ました！FBページも出来ました！<https://www.facebook.com/JenaOranda/>

《活動日》

- ・ 7月15日（日）アムステルフェーンの公民館
子育てに生かそう！哲学の基礎セミナー（講師：武田昌子さん）
詳しくは、以下の第3号会報をご覧ください。
- ・ 8月22日（日）会報第3号発行 <http://news.japanjenaplan.org/?eid=67>
- ・ 9月8日（土）アムステルフェーンの公民館
自由な発想で考える練習が出来る！哲学ワークショップ（講師：リヒテルズ直子さん）

《今後の日程・告知》

第4号会報は10月に発行予定。その中で、9月のワークショップについても報告します。オランダ各地でワークショップ等を行っていけるよう企画中です！

（報告：山地 芽衣）



各支部のご案内

- | | |
|-------------|----------------------------------|
| ・ 北海道（帯広）支部 | … hokkaido-obh@japanjenaplan.org |
| ・ 埼玉 支部 | … saitama@japanjenaplan.org |
| ・ 千葉（浦安）支部 | … chiba@japanjenaplan.org |
| ・ 東京（江東）支部 | … chiba@japanjenaplan.org |
| ・ 東京（大田）支部 | … chiba@japanjenaplan.org |
| ・ 東京（世田谷）支部 | … info@japanjenaplan.org |
| ・ 長野（東信）支部 | … toshin@japanjenaplan.org |
| ・ 長野（中信）支部 | … matsumoto@japanjenaplan.org |
| ・ 長野（南信）支部 | … inadani@japanjenaplan.org |
| ・ 愛知（名古屋）支部 | … nagoya@japanjenaplan.org |
| ・ 関西（大阪）支部 | … kansai@japanjenaplan.org |
| ・ 福岡 支部 | … fukuoka@japanjenaplan.org |
| ・ オランダ支部 | … oranda@japanjenaplan.org |

※ 千葉（浦安）支部、東京（江東）支部、東京（大田）支部は共同運営しています。



オランダ・イエナプラン教育協会の季刊誌の特集

「国境の向こうのイエナプラン」に日本のことが掲載されました！

2019年4月に開校予定のしなのイエナプランスクール大日向小学校のスクールリーダーとして準備を進め
ておられる桑原昌之さん、宅明健太さんがオランダに研修に行かれたときの記事です。オランダの記者か
ら見た日本の教育者の姿が出ていて、とても興味深いです。是非読んでみてください。

日本におけるイエナプラン・コネクション

日本初のイエナプラン・スクールができる日を間近にして

(翻訳はリヒテルズ直子)

エドウィン・ソーレンとマサユキ・クワハラは、言葉の障壁を越えて、お互いに理解し合えた。ある教
室を訪れていて、2人は、そこでの様子を全く同じ感想を持ったのだ。マサと助手のケンタは、日本に初
めてできるイエナプラン・スクールのスクールリーダーになることが決まっており、そのため、オラン
ダで研修を受けることとなった。

(続きは会員ページからダウンロード！！)

協会の民主化に伴う、会員制度の変更について

先だってからお知らせしておりますように、協会の民主化に向けて準備を進めております。

それに伴い、今年度より、会員の種別が以下の2つになりました。

ご確認いただき、更新の際にどちらかをお選びください。

正会員：5,000円

※理事の選挙権・被選挙権を持つ

※総会での議決権有

賛助会員：3,000円

これまで通りの会員。上記正会員の持つ権利は無し

協会の活動がより活気を得ますように、是非積極的に正会員になっていただけますことをお待ちしております。